

# 状態動詞の進行形の用法

都 築 郷 実

## Some Usages of Stative Verbs with the Progressive Form

TSUZUKI Satomi

**Abstract:** This paper focuses on some usages of stative verbs with the progressive.

Though it is said or argued that stative verbs are usually not used with the progressive, there are various cases where the progressive may occur. In this paper, we discussed the following five groups of stative verbs with the progressive form:

- (1) verbs of perception: hear, see,
- (2) verbs of thinking: consider, doubt, feel, figure, guess, imagine, suppose, think,
- (3) verbs of recognition [cognition]: believe, discover, forget, know, realize, recognize, remember, understand,
- (4) verbs of feelings [emotion]: dislike, hate, like, love, suspect, want,
- (5) verbs of relationship (including verbs of possession): agree, belong to, consist of, cost, remain, seem, sound; own, possess,

These verbs used with the progressive form are examined by means of citing illustrative examples. This paper reveals that stative verbs are to some extent used with the progressive in the cases where the progressive expresses emotiveness, imagination, temporariness, tentativeness, process of changing state and its emphasis, and the emphasis of duration.

The following are some examples in the cases of expressing (1) temporariness, (2) imagination, (3) emphasis of temporary emotiveness, (4) tentativeness, (5) process of changing state and its emphasis and (6) emphasis of duration.

- (1) a. The profiles are changing. We are seeing ultra-radical guys return, very battle-hardened. . . . But now, we are seeing guys return who are sticking to their chosen path."  
——*The Japan Times*
- b. ‘At this moment I am feeling that I am considerably further back. . . .’  
——Agatha Christie: *Peril at end House*
- (2) Gilbert looked as if he were hearing a foreign language.  
——B. Plain: *Evergreen*
- (3) “You’re hating me?” he said, . . .  
——V. Winsper: *The Noble Savage*
- (4) ‘Go on.’ ‘You’re not believing me. I can tell your voice.’  
——R. Chandler: *The Little Sister*
- (5) ‘You’re sounding more and more like Richard every day,’ she laughed.  
——J. Archer: *The Prodigal Daughter*
- (6) New York (AP)—As for the possibility of a job action, Miller said: “We’ve been hearing for months they’re planning on missing and delaying games.”  
——*The Daily Yomiuri*

**Key Words:** stative verbs, verbs of perception or thinking, verbs of feelings or relationship, process of changing state, emphasis of duration

**要旨:** この論文では、状態動詞の進行形の用法を、実例を挙げて検討している。

状態動詞は通常、進行形との共起が起りにくいということが言われて来ている。実態は状態動詞であっても、条件があれば進行形と共起することに問題のないことが実例から確認できる。

この論文では、これまでの研究成果を取り入れて、状態動詞を意味によって 5 分類して検討している。

(1) 知覚動詞: hear, see,

(2) 思考動詞: consider, doubt, feel, figure, guess, imagine, suppose, think,

(3) 認識動詞: believe, discover, forget, know, realize, recognize, remember, understand,

(4) 感情動詞: dislike, hate, like, love, suspect, want,

(5) 関係動詞 (所有動詞を含む): agree, belong to, consist of, cost, remain, seem, sound; own, possess,

上記の動詞の進行形との共起が、どのような条件があれば、進行形で使われるのかを明らかにして行きたいと考え、辞書、文法書は状態動詞と進行形の関係をどのように扱って来たかを検討し、その妥当性を実例で確認する事にした。

この論文では、状態動詞の進行形との共起は以下の条件があれば、可能だということを示したい。

(1) 一時性 (2) 非現実 (3) 一時的な感情の強調 (4) 控え目 (5) 過程, その強調 (6) 継続の強調

それぞれの場合の例を用例で見ることにする

(1) a. The profiles are changing. We are seeing ultra-radical guys return, very battle-hardened. . . . But now, we are seeing guys return who are sticking to their chosen path."

—The Japan Times

b. 'At this moment I am feeling that I am considerably further back. . . .'

—Agatha Christie: Peril at end House

(2) Gilbert looked as if he were hearing a foreign language.

—B. Plain: *Evergreen*

(3) "You're hating me?" he said, . . .

—V. Winsper: *The Noble Savage*

(4) 'Go on.' 'You're not believing me. I can tell your voice.'

—R. Chandler: *The Little Sister*

(5) 'You're sounding more and more like Richard every day,' she laughed.

—J. Archer: *The Prodigal Daughter*

(6) New York (AP)—As for the possibility of a job action, Miller said: "We've been hearing for months they're planning on missing and delaying games."

—The Daily Yomiuri

**キーワード:** 状態動詞, 知覚・思考動詞, 感情・関係動詞, 状態の変化, 継続の強調

## 1. はじめに

江川 (1991) の p.139 の「状態動詞と動作動詞－進行形との関係」の所で、状態動詞を次のように、大きく 3 つに分類している。

(A) 一般に状態を表わす動詞

(B) 心理状態を表わす動詞：(1) 好悪・希望などを表わす動詞

(2) 思考・認識を表わす動詞

(C) 知覚を表わす動詞

同書の pp.229-232 には上記の状態動詞が、進行形で使われる 2 つの場合の例を、以下のようにあげている。

(A) 一時的な状態をいう場合

(B) 動作動詞になる場合 無意思の状態を示す動詞が有意思の動作を表わす場合は進行形になることができる。

本論文では英和・英英辞典、英文法書などにおいて、状態動詞と進行形の関係をどのように扱っているかを通覧し、そこでの記述の妥当性を事例を通して再検討したいと考えている。

状態の意味を持つ動詞が、どのような場合に進行形で使われているかが、事例をみることで明らかになる。先行研究でも述べられている、「一時的な状態をいう場合」などの一定の条件があれば、進行形で使われることは決してまれでないこと、また動詞の種類、特にそれらの動詞の意味によって進行形で使われやすい動詞と、そうでない動詞があることも明らかにしたい。状態動詞を、文法書を参考にして、意味によって五つに分類し、事例をあげて再検討する。

## 2. 英和・英英辞典での扱い

小西（1987, 1993）の「この辞典の使い方」で英和辞典では初めての試みとなる S (stative) と D (dynamic) の表示が採用され、その説明がされていた。これは C (countable) と U (uncountable) に倣ったものである。この S 性 D 性と進行形との関係を次のようにまとめている。

### 7 S 性と D 性（進行形との関係）

contain ■■■■■■ ■は S 性

know ■■■■■□

love ■■■■■□ □は D 性

lie ■■■■■□

claim ■■■■■□

ここで S 性の高い ‘contain’ について他の辞書ではどのように扱っているかを調べてみると、次のようになっている。

山岸（2015）では語義 1, 2 で「(進行形にしない)」とある。

野村（2013）では語義 1 に「(進行形不可)」としている。

赤須（2018）では語義に関係なく「[進行形なし]」としている。

現在の英和辞典では、上記の参照した 3 つの辞書の記述のように、状態性の意味を持つ動詞の所で、「通例進行形にしない」などのように表記するが普通である。

英米の英英辞典で各語彙に進行形の可否について記述した最初の辞書は Kirkpatric（1980）である。‘contain’ については、

‘not used with is, was, etc and -ing (defs 1,3)’

としている。

Hornby（2010）はそれぞれ次のように記述している。

‘not used in the progressive tenses’

Pearson Education（2014）では、[Grammar] の項に ‘Using the progressive’ として、次のように説明している。

‘In meaning 1, 2 and 3, contain is not used in the progressive. You say:

What does this box contain?

×Don’t say: What is this box containing?’

これから状態性の高い ‘contain’ は進行形にしないことが分かる。

### 3. 英文法書での扱い

英文法書での扱いについて概観してみる。

綿貫(2000)のpp.429-431の「§195 ふつう進行形にしない動詞」の所で、「(1) 状態を表す動詞」と「(2) 知覚・心の動きを表す動詞」の2分類して次のように述べている。

#### (1) 状態を表す動詞

これらの動詞が進行形で用いられるのは次のような場合である。

①一時的な状態を表す場合

②推移を表す場合…副詞語句を伴うことが多い。

#### (2) 知覚・心の動きを表す動詞

知覚や心の動きを示す動詞でも、意志のある動作を表すときは進行形になる。また、一時的な現象・活動や強い感情・非難などを表すとき進行形になるものもある。

高梨(1970)pp.395-397の「(4) 進行形のない動詞」では次のような説明がある。

「すでに述べたように、進行形は一時的な有意志的な動作の継続を表すものであるから、次のような動詞は進行形にすることはできない。」

として、状態動詞を、「(a) 継続的状态を表す動詞」、「(b) 意志によって左右できない知覚・感情・知識などを表す動詞」の2分類している。

次に他の英文法書での扱いについても述べることにする。

綿貫他(2006)p.438第6節に「ふつうは進行形にならない動詞」に次のような記述がある。

．．．，人やものの性質・状態を表す状態動詞は進行形にならないか，進行形になるのがまれである。このような状態動詞には(a)所有を表す動詞，(b)感情・態度を表す動詞，(c)認知・思考を表す動詞，(d)知覚を表す動詞などがある。

鈴木他(1994)のp.252の13.1.2.(vii)の「進行相になれないとされる動詞が進行相で用いられるとき」で次のように述べられている。

believe, forget, hope, imagine, know, suppose, understand, wonder, like, love のような認識動詞，あるいは，see, feel, hear, smell, taste のような知覚動詞などの状態動詞は，状態を表すときには，単純形で用い，進行相で用いることはないとされる。

安藤(2005)のp.123 8.3.2.の「状態的動詞の進行形」で次のように述べている。

前述したように(§4.5.1)状態的動詞は〈持続〉という意味特徴を内在的にもっているもので，普通，進行形をとらない。進行形をとっている場合は，(i)別義の非状態的動詞として使われているか，(ii)推移的という統語特徴が加わっているか，それとも，(iii)主語の〈一時的な心理状態〉を報告しているか，のいずれかである。

次にデクラーク(安井訳)(1994)のp.226の4.1.4.1.「進行形にできない動詞の種類」で状態動詞を3分類して，次のように述べている。

状態的に用いられる動詞は，通例進行形で用いることはない。(「状態」という語の中身については，1.9.7.節の2.を参照。)状態動詞については，三つのクラスを区別することができる。

1. 静的知覚(inert perception)を表す動詞
2. 認識動詞(verb of cognition)

- a. 精神状態, 感情〔情緒〕, 心的反応などを表す動詞。
- b. 精神的状態・反応・感情などを引き起こすものを表す動詞。

認識動詞は, 行為ではなく, 状態を表す。そのために, 認識動詞は進行形で用いられにくいのである。

### 3. 関係を表す動詞 (relational verb) や状態動詞 (verb of state).

これらは, 関係・条件・存在状態を表す動詞である。

トムソン他 (江川訳) (1988) の p.228 で, 「原則として進行形を作れない動詞」について, 次のように 5 分類している。

- A 知覚に関する動詞 (無意志動作)  
(形容詞を伴った連結動詞)
- B 好悪・希望などの感情に関する動詞
- C 心理的動作 (認識・思考など) に関する動詞
- D 所有に関する動詞
- E その他の動詞

中村 (2009) の p.304 7.2. 「進行形と動詞・形容詞の意味」で, 次のように 5 分類している。

- (1) i. 所有・所属の意味の動詞
- ii. 知覚・心理動詞の一部
- iii. 認識動詞
- iv. 好き嫌い・欲求の動詞
- v. 関係を表す動詞

柏野 (1999) の p.120 4.2.3. では, 「(42) 状態動詞: belong, contain, have, know, like, own, see, think, want, etc」を, 意味に基づいて次のように 5 種類に下位区分している。

- (45) 精神的な状態を表すもの
- (46) 感情 (好き嫌い) を表すもの
- (47) 所有を表すもの
- (48) 知覚を表すもの
- (49) その他の状態を表すもの

これらの動詞が進行形で用いられる場合を次のように理由と共に例文をあげて列記している。

- (i) more (and more) や less (and less) などの比較級が付加されたとき。
- (ii) 状態動詞が動作動詞の意味に転化しているとき。
- (iii) 感情 (好き嫌い) を表す動詞が強い感情を込めて用いられるとき。just, really など进行することが多い。
- (iv) 「一時性」が強調されるとき

状態動詞の分類の仕方は文法書によって若干違っているが, 5 分類が妥当ではないかと考えている。本稿でも状態動詞を 5 分類して, 進行形の可否を検討している。今までの文法書での先行研究から, 進行形が可能となる場合をまとめてみると, 次のようになる。

- (あ) 一時性の強調
- (い) 過程, 推移などの状態の変化
- (う) 動的な意味への変化
- (え) 継続の強調
- (お) 一時的な感情の強調
- (か) 非現実的な世界の表現
- (き) 習慣的な行為の強調

## 4. 状態動詞が進行形で使われることについての検討

先行研究のうち, 文法書で状態動詞の分類をみると, 「関係を表す動詞 (所有を表す動詞を含む)」のように,

一時的な状態や過程の意味を表現しにくい動詞があることが分かる。たとえば belong (to), consist (of), contain, exist, own, possess などは進行形になりやすく、心的状態を表わす動詞や、知覚を表わす動詞は比較的進行形になりやすい傾向があることが示されている。

このように状態動詞の中でも進行形で使われやすい動詞とそうでない動詞があるのは、それぞれの動詞の状態性に段階性があり、状態の変化を表現する出来やすさには、動詞によって違いがあるからだと考えられる。

状態動詞全般に言えることは、元々、始点と終点をはっきりと意識する必要が少なく、通常、継続的な状態の意味を持っているので、普通は進行形で使う必要はない。

だから進行形で使われるためにはそれなりの条件が必要になってくる。そのため、先行研究でも状態動詞が、進行形で使われるための条件について、いろいろな見解が示されてきている。

ここでは状態動詞を 34 個に絞って、先行研究の分類を参考にし、それらを次の 5 つのグループに分ける。辞書、文法書を参照しながら、先行研究で述べられている状態動詞の進行形の可否について、実例をあげて再検討する。

状態動詞の分類は以下の通りである。

- (1) 知覚動詞：hear, see
- (2) 思考動詞：consider, doubt, expect, feel, figure, guess, imagine, suppose, think
- (3) 認識動詞：believe, discover, forget, know, realize, recognize, remember, understand
- (4) 感情動詞：dislike, hate, like, love, suspect, want
- (5) 関係動詞（所有動詞含む）：agree, belong to, consist of, cost, remain, seem, sound; own, possess

#### 4.1 知覚動詞と進行形

小西（2006）には、‘hear’の項で通例進行形は不可としながら「一時的な行為や、出来事が続いていることを強調するときは進行形が可能」として 2 例あげている。

Is this copier all right? I have been hearing a strange noise.

You're just hearing things.

‘see’では次の 2 例のような場合は進行形で使われるとしている。

I'm seeing it more clearly. 《◆程度の変化を進行形で表す》

She is seeing visions now. 《◆一時的な現象の場合は進行形可》

これから、継続の強調や、一時的な行為・現象、程度の変化を表す場合、進行形は可能であると考えられる。実例でもそのことが確認できる。

‘see’の進行形の可否について、小西（2006）では、上記のように例の中で説明していた。ところが、南出（2014）では‘see’の項の語法欄で、

[進行形が可能な場合] 進行形は次の 3 通りの場合に可能：

- a) 程度の変化を表す場合：She's seeing more clearly with her new glasses.
  - b) 空想や幻覚の場合：There's something wrong with me. I'm seeing red spots in front of my eyes.
  - c) ふだん見ることのできない物を見て驚きを表す場合：Imagine. At last I'm seeing the Statue of Liberty!
- と見やすくまとめられている。これまでの、知覚動詞‘see’の研究の成果が、辞書の記述に生かされている。

鈴木他（1994）の p.118 を見ると次のようにある。

すべての動詞が be + -ing によって進行構文になるわけではなく、とくに受動的な知覚動詞 see, hear, understand, know さらに belong, resemble などではふつうではない。しかし、ごく最近これまで進行構文をとりにくかった hope, forget, remember, さらに see, look 「にみえる」なども「一時的な継続」の意味を表すときは用いられることがある。

知覚動詞の場合、進行形が可能な場合は、次の 5 つである。

- (a) 空想や幻覚・幻聴の場合
- (b) 程度の変化、過程を表す場合
- (c) 無意思の意味から、有意思の意味に変化して、一時性を強調する場合

(d) always などの副詞と共に用いられていて、感情的な要因を加味する場合。

この場合、進行形自体に感情的な要因があるわけではない。あくまでも ‘always’ などの副詞を伴って進行形と使われていることで感情的な意味合いが加味されるのである。

(e) 通例完了形で使われて意識的状态の継続を強調する場合

上記の5つの場合以外で、無意識の状態で自然に「聞こえている」「見えている」の意味を表す場合、通例進行形では使われないと考えられる。

なお ‘see’ には小西 (2006) の語義 10 で「〈人が〉O〈人・物・事〉を…のように考える、Oを(ある見方で)みる；Oを…と想像する、考える、みなす；…」とあり、思考動詞と考えられる場合には ‘We’re seeing a fundamental shift in people’s political opinions.’ の例をあげて「進行形は単なる see より強調的な言い方」と説明があるので、この語義の場合は、進行形では一時性の強調に使えることがわかる。実例でも次のように使われている。

Denver (AP)—: “I’m seeing him as the leader of a franchise. I really liked what he had to say…” —*The Japan News*

以下 (a) から (e) までのそれぞれの場合の実例を見てみる。

#### (a) の例

この例の場合、三つの特徴がある。特徴の二つは、‘see [hear] things’, ‘see visions’ などの慣用的な表現で使われていることと、‘as if’ の中で使われていることである。三つめは、(5) の例のように、文脈から幻覚と考えられる場合である。

- (1) They thought they were hearing things. —G. A. Brown: *Green Ice*
- (2) a. ‘Am I seeing things?’ said Willie,... —H. Wouk: *The Caine Mutiny*  
b. Old men are dreaming dreams and young men are seeing visions. —Tom Doyle: *Dreams And Visions: Is Jesus Awakening the Muslim World*
- (3) Gilbert looked as if he were hearing a foreign language. —B. Wood: *The Killing Gift*
- (4) ..., as if he were seeing things other people didn’t see. —B. Plain: *Evergreen*
- (5) By the time I killed that guard and ran away, he was seeing ghosts every night. —Richard Blake: *The Curse of Babylon*

#### (b) の例

‘more and more’ などの変化を表す副詞句と共に用いられている。

- (5) ..., reports that “We are seeing more and more people coming out of places like Malasia, Indonesia, Singapore, Taiwan and Thailand.” —*Time*

#### (c) の例

この例の特徴は ‘I think [believe]’ などの補文の中で使われていることが多いことである。‘what’ の関係代名詞の中で使われている例も多い。(12), (13) の例のように ‘now’ を伴っていることもある。

- (6) “I don’t believe I’m hearing you say these things...” —*Newsweek*
- (7) “I couldn’t believe I was seeing it,” ... —*Time*
- (8) “Yes, I think they were hearing the same song.” —*Time*
- (9) “..., and those d-d-dummies out there think they’re seeing it on the screen.” —C. Kanin: *Moviola*
- (10) “I can’t believe what I’m hearing, Mr. Riley.” —J. B. Olesler: *The Young Dragons*
- (11) At first, I couldn’t quite believe what I was seeing... —*The New Yorker*
- (12) He was hearing it now,... —E. Queen: *Bow Hot, Blow Cold*
- (13) Plenty of people now are seeing icebergs,... —*The New York Times*

#### (d) の例

‘always’ などの副詞と共に用いて感情的な意味合いが加味される。

- (15) In Japan, I am always hearing mothers screaming to their children, “Abunai! Abunai!” —James Kirkup: *New Japan Now*

## (e) の例

通例完了形と共に用いられ、継続期間の長さを強調する。

(16) a. New York (AP)— Miller said:

“We’ve been hearing for months they’re planning on missing and delaying games.” —*The Daily Yomiuri*

b. New York (AP)—“For the last week or so, I’ve been seeing the ball and swinging the bat well,” Matsui said.” —*The Daily Yomiuri*

## 4.2 思考動詞と進行形

思考動詞の場合、(a) 断定を緩和する場合、(b) 話者のためらいがちな気持ちを表わし、断定を避ける場合、(c) 一時的な過程の強調の場合、(d) 継続を強調する場合に用いられている。(d) の場合、(24) の例にあるように、完了形と共に用いられることが多い。

(a), (b), (c), (d) 共に ‘that’ 節を伴う場合、普通に見られる。理由は状態性の高い意味から動作性の高い意味に変化しているからだと考えられる。ただし、‘consider’ は、‘We consider him (to be) honest.’ のような構文で使われている場合、通例進行形で使われにくい。小西 (2006) の ‘consider’ の項でも ‘SVO (to be) C’ の構文の場合、「進行形は不可」と注記している。しかし、‘We consider that he is honest.’ で表現する場合には (17) の例文にみられるように進行形で使われる可能性が高くなる。これは構文によって ‘consider’ に状態性の程度に差が出てくるからだと考えられる。‘that’ 節の方が ‘consider’ の意味の状態性が低い (動作性が高くなる) と考えられるので、進行形が可能になる。

(17) の例文では、一時性が強調され、断定を避ける表現となって、進行形が使われている。この ‘that’ 節と ‘SVO (to be) C’ の構文において、進行形で使われることの頻度の差は、‘expect O to do’ ‘feel O to be C’, ‘imagine O to be C’, ‘suppose O to be C’ などの構文で使われる場合も、同様な傾向が見られる。さらに 5.3. 認識動詞であげている ‘believe O to be C’, ‘discover O to be C’ などの構文でも同様な傾向にある。

小西 (2006) で、‘doubt’ ‘expect’ ‘feel’ ‘suppose’ の進行形の可否を調べて見るとすべての語に、「(通例) 進行形不可」の注記がされている。

ただ、‘expect’ の場合、赤須 (2018) の p.623 に ‘I was expecting (that) you would come last night.’ に見られるような、断定を緩和する場合には普通に使われている。(例 (18))。

以下の例に見られるように、(1) 断定を緩和する場合 (例 ((23), (25), (26)), (2) 断定を避け、話者のためらいがちな気持ちを表す場合 (例 (19)), (3) 一時性の強調 (例 (20)) (4) 主に完了形で使われていて、継続を強調する場合 (例 (24)) の場合には進行形が使われている。

‘feel’ の場合、思考動詞でなく、感覚動詞の場合、小西 (2006) の p.723 の ‘feel’ の項の語義 1 の語法欄で「感覚動詞で使われた場合、人称主語で I am feeling pains in the back these days. I am feeling good today などのように一時期の習慣的な感覚をいう場合のみ進行形は可能である。日常的な感覚を表現する場合では I feel pains in the back. と表現する。」とある。

以下実例をあげておく。

(17) “... They’re considering that there’s only a year or so of the unexpired term to go, and ...” —Irving Wallace: *The Man*

(18) ‘I was expecting you’d want to marry me,...’ —H. Bennett: *A Wilderness of Vines*

(19) ‘It sounds like you’re doubting whether the operation will succeed...’ —L. Peake: *Gregg Barratt’s Woman*

(20) ‘At this moment I am feeling that I am considerably further back...’ —Agatha Christie: *Peril at End House*

(21) “... Three days ago I was figuring I’d have to finance a new tux to bury the corpse in.” —Mickey Spillane: *Kiss me, Deadly*

(22) ‘Just the same, I’m guessing you’re not anxious to see the fuzz...’ —P. Denver, Cannon: *It’s Lonely on the Sidewalk*

(23) ‘I wasn’t sure if I was imagining it was you standing at the door,’ she muttered. —Flora Kidd: *Beyond Control*

(24) Was that all? I was quite relieved. I’ve been imagining she was going to say something terrible. —Andrea



Newman: *Mackenzie*

(25) In supposing that the list and hence its summary are of use, we are supposing that they give meaning to talk of ordinary consciousness,... —Ted Henderich: *Actual Consciousness*

(26) “I’m thinking you don’t find my news too welcome.” —H. MacInnes: *Ride a Pale Horse*

### 4.3 認識動詞と進行形

認識動詞の場合、話者のためらいがちな気持ちを表わし、断定を避ける表現の場合や、過程や一時的なことを強調する場合には用いられている。

‘believe’の進行形での可否を英和辞典、英英辞典で調べてみると皆「不可」としている。

小西（2006）「(◇通例進行形不可)」, 花本他（2003）「(通例進行形不可)」山岸（2015）「(進行形では) 用いない」, 野村（2013）(進行形では用いない), Kirkpatric（1980）‘not used with is, was, etc and -ing’, Hornby（2010）‘not used in the progressive form’ とあり全て不可としている。

確かに「信じている」状態だけの表現であれば進行形で使う必要はないが、一時的に「信じている」ことを強調することによって断定的な表現を和らげたり（用例（29））、信じる過程を強調したり（用例（28））、さらに完了形で使われている場合は、継続的に「信じている」ことを強調するために、進行形を使った方が、効果的でより適切な表現が出来ると考えられる（用例（30））。そのため通常は不可とされる believe に進行形が使われている。（27）の例のように否定文で使われれば、断定的な表現を和らげる効果もある。

‘forget’については進行形で使われることがまれではないようで辞書にも例をあげて説明がされている。小西（2006）の p.777 で ‘Oh yes, I was forgetting [forgot] (that) she was coming today.’ ‘I was forgetting [has forgotten] that you don’t like fish.’ の例に対して「現在形より丁寧」とある。また ‘I’m forgetting names nowadays.’ には「現在の一時的習慣を表す進行形」と注記している。さらに赤須（2018）の p.712 に ‘I completely forgot (that) you were coming.’ の例にたいして「主に S では進行形 I was completely forgetting…も可能」と注記している。（ここでの S は spoken のことだと説明されている）。また口語では ‘Aren’t you forgetting something? = Haven’t you forgotten something.’ の例をあげているが、注記はない。このような二人称の場合の例では、相手に対して断定を避ける表現になっていて、普通に使えると思う。（33）の例をみると断定を避ける表現になっていることが分かる。

綿貫（2000）には「forget も「忘れていく」という意味ではふつう進行形にしないが、批難の気持ちを表す表現や、次第に忘れていくというような場合には進行形も用いる」とある。

‘remember’については両辞典とも進行形の例をあげていない。小西（2006）の p.1613 の ‘remember’ の項に ‘I remember [\*am remembering] posting [having posted] your letter. = I remember (that) I posted your letter.’ として進行形にはできないとしている。赤須（2018）では ‘remember’ の語義の前に「語法 普通は進行形には用いない」と注記している。‘forget’ にも「普通は進行形なし」と注記されている。用例（36）に見られるように ‘right now’, 用例（37）のように ‘for a few days or a few weeks.’ などの副詞句をとまって一時的な過程を表現する場合には可能である。

用例（34）の例に見られる ‘know’ の進行形での例は極めて珍しいが、過程の強調には適切である。

‘discover’については小西（2006）、赤須（2018）に進行形についての言及がされていない。‘realize’については小西（2006）には語義1で「受け身不可；通例進行形不可」とある。赤須（2018）にも語義1で「進行形・受け身なし」とある。

用例（35）で見ると「気が付いてきている」という過程を強調している場合には進行形が可能である。

(27) ‘Go on.’ ‘You’re not believing me. I can tell by your voice.’ —R. Chandler: *The Little Sister*

(28) “Pretty soon, he is believing more and more in his own power, …” —*Newsweek*

(29) There were so many lies that I was believing and didn’t know it —Jessica Lynne Kauffman: *Writing From the Heart of a Third Culture Kid*

(30) “You’d better. I’ve been believing it for a long time, now, Dianna —Don Pendleton: *The Executioner: War against the Mafia*

(31) They are also discovering that infants are enormously complex- *Newsweek*

- (32) Worse, he was discovering that his sexual needs were limited. —G. Green: *The Healers*
- (33) “You’re forgetting the most important point,” Joe said. —J. Weidman: *A Family Fortune*
- (34) “I’ll remember you too. I’ll be thinking about you over here...I’ll be knowing that you’re all right every time I think about you.” —Danielle Steel: *Family Album*
- (35) “Women are realizing that harassment is a form of discrimination—” —*Newsweek*
- (36) “... Right now I’m remembering the night you sent Brooks to follow me.” —F. G. Slaughter: *The Stubborn Heart*
- (37) Now it had happened again, thanks to Meyer, and I would be remembering Helena Pearson for a few days or a few weeks. —J. D. Macdonald: *Girl in the Plain Brown Wrapper*

‘understand’ の場合 ‘I understand what you are saying.’ の例文では「分かっている」という状態を言うので、わざわざ ‘I am understanding what you are saying.’ と言って一時性を強調する必要はないと考える。ただし ‘Are you understanding this?’ は ‘Do you understand this?’ に比べて、断定を和らげる表現として、非文にはならないと考える。

(38) の例では ‘as if’ 中で使われていて、‘for the first time’ の副詞句と共に用いていることを考えると、一時的な状態が強調されていることが分かる。(39) の例のように、否定文で使われると、‘I don’t understand this here,’ と表現するより断定が緩和され、丁寧な表現になっている。

- (38) And I woke up happy—as if I were understanding happiness for the first time. —Erica Jong: *How to Save Your Own Life*
- (39) “Babette, listen to me. I’m not understanding this here, Babette...” —D. Greenburg: *Love Kills*

#### 4.4 感情動詞と進行形

この動詞の場合、(43)、(49) の例に見られるように一時性を強調したり、(45) の例に見られるように進行形を使うことで一時的な感情を一層強調したりしている。(40)、(41) の例のように進行形を使って一時性を強調することで、‘you dislike me’ ‘you hate me’ と表現するより話者の控えめでためらいがちな気持ちを表わしている。(43)、(51) の例に見られるように断定を避ける表現や(47)、(50)、(52) の例では完了形と共に用いて継続を強調する表現にも使われている。(42) の例では ‘more’ などを使って感情の推移が表される場面で使われている。(46) の例に見られるように ‘always’ を使って感情の強調を進行形を使って効果的に表している。感情動詞は進行形が効果的に使われていることで表現に広がりを与えられている。

‘dislike’ について小西(2006)、赤須(1018)にはそれぞれ「進行形不可」、「進行形なし」と注記している。

‘hate’ については小西(2006)では「一時的な状態をいう場合以外は進行形不可」としている。

赤須(1018)では「普通は進行形なし」としている。小西(2006)のように踏み込んだ説明にはなっていない。

‘like’ では小西(2006)には「通例は進行形不可」としながら、語法欄で「(1) 次の構文では進行形は可: How are you liking your new job? = How do you like your new job? 新しい仕事についたばかりで好き嫌いがまだ気持ちが決まっていなと思われる時に進行形を使う」と説明されている。

赤須(2018)には「普通は進行形なし」とあり語法欄で「(2) like と進行形 普通は進行形にしないが, enjoy の意味で用いる次のような形では可能: How are you liking your school?」と説明している。例は ‘job’ と ‘school’ と入れ代わっているだけで同じである。

この例文では ‘like’ の意味が動作動詞に変わっていると考えられる。‘love’ についてみると小西(2006)では「愛している」の意味では「進行形不可」とし、動作性の意味を持つ「〈人を〉愛撫する」の意味では「進行形可」としている。」例をあげて、‘He loves Mary.’ 彼はメアリーを愛している。(He is loving Mary. は「愛撫している」の意になる)」としている。

赤須(2018)では「進行形なし」としているだけである。

用例(44)では「気に入っている」の動的な意味になっていて、一時性の強調になっている。(45)では ‘love’ との対比と ‘passionately’ と相まって、さらに一時性が協調されている。

‘suspect’ については小西(2006)では「命令形・進行形は不可」としている。赤須(2008)でも「進行形・命

令形なし」としている。

用例 (47) にあるように完了形で継続を強調する場合には、進行形が可能である。(46) の例にあるように完了形以外の時制でも ‘always’ などの副詞を伴って一時的な感情の強調の時にはむしろ進行形を使った方がよいと思われる。

‘want’ については、と小西 (2006) で、「(2) 通例進行形にはしないが、表現を和らげて What are you wanting? と言ったり、話し手のいら立ちを示して You’re always wanting to borrow my thing.」と説明している。さらに語法欄で「長い間待ち望んでいたものについては継続を強調する場合完了進行形が用いられる：Thank you so much. I’ve been wanting it for ages.」としている。

赤須 (2018) でも「普通は進行形なし」としながら語法欄で「(1) その場の一時的な欲求や必要を表す時や表現を和らげる時、例外的に進行形を使うことがある：I’ve been wanting to talk to you./What were you wanting, sir?」としている。

綿貫 (2000) でも「want などは表現やわらげるときに進行形にもちいることもある。」として

Perhaps you are wanting to take shower?

I have been wanting to do this for three years.

の例をあげている。

‘wish’ の場合では小西 (2006) には ‘SVO to do’ の構文では「進行形不可」とあるだけである。

赤須 (2018) では「1, 2 の意味では普通は進行形で用いない」としている。

用例では (51) のように断定を緩和する場合で用いられている。(52) では ‘want’ と同様に完了形で使われていて継続を強調している。

(40) ‘I suppose you’re disliking me still for the way I’ve treated you lately?...’ —K. Blair: *The House at Tegwani*

(41) “You’re hating me?” he said,... —V. Winspear: *The Noble Savage* —Leslie Langtry: *Ukulele Murder: Aloha Lagoon Mysteries book #1*

(42) “I’m liking you more every minute.” He put his arm about me. —Victoria Holt: *Lord of the Far Island*

(43) “Where are you liking to go?” he asked. —Phillip Friedman: *Termination Order*

(44) She had a new boyfriend now, and was loving New York. —Daniel Steel: *Family Album*

(45) I was delivered from my mother, my family, the girl I was loving passionately but did not love. —*Time*

(46) ‘You are always suspecting something,’ Celie said impatiently. —J. H. Chase: *Make the Corpse Walk*

(47) ‘You’ve only put into words what I’ve been suspecting subconsciously.’ —Taylor Caldwell: *This Side of Innocence*

(48) “Then would you be wanting a sandwich?” Sol asked. —P. Shute: *Dazzled by Diamonds*

(49) “He’s wanting us to reckon with those very human, ...” —*The New York Times* (International Edition)

(50) “I’ve been wanting to do that all afternoon,” he said. —Harold Robbins: *The Storyteller*

(51) ‘Sure, an’ I’ll be wishing you a very good evening.’ —N. Shute: *The Far Country*

(52) In other words, I’ve been wishing to not have the pain, which is not one of the choices. —*The New Yorker*

#### 4.5 関係動詞（所有動詞を含む）と進行形

ここにあげられている動詞は一番進行形になりにくいですが、一時的な状態の強調や断定を緩和したり、過程を強調する場合に使われている。稀ではあるが、所有動詞 (possess) の例で非現実な場合に一時性の強調で使われることがある。

小西 (2006) では ‘agree’ の項で「《◆命令形・進行形不可》」, ‘cost’ の項では「(1) 進行形・受け身は通例不可。ただし比較級を伴う推移・変化を表す場合は進行形が可：Eggs have been costing more since last month.」としている。

‘remain’ では「《◆(2) 進行形不可；ただし、自分の意志で自由にできる場合は可能：He was remaining silent.》」と注記している。‘sound’ では「That sounds [\*is sounding] interesting to me. の例をあげて《◆進行形は不可》」と注記している。

‘belong’ の項にも「《◆命令形・進行形不可》」としている。手元に古い例 (1874) に, ‘They call it the Public Fund, as nothing is private, So the land and all the houses are belonging to the State.—Mrs. Hibbert Ware: *New Monthly Magazine*’ があるが, 現代英語で使われることは極めてまれであると推測される。手元にある現代英語の例では, 間違って使われているのではないかと思われる (53) の例があるだけである。

小西 (2006) には ‘consist’, ‘contain’, ‘exist’, ‘own’, ‘possess’ などでも「《◆進行形不可》」と注記している。

これらの動詞は意味的に考えて状態の程度がかなり高いので, 進行形にして一時的な状態の強調などをすることの必要性がないことが, 進行形になりにくい一因と考えられる。

ただし ‘contain’ の場合一時性を強調する場合, 可能となることがある。

小西 (2006), 南出 (2014) では, ‘contain’ の項で「The envelope was containing a pair of concert tickets when I mailed. 投函した時, 確かに封筒の中にはコンサートの券が 2 枚入っていた《◆一時的状態を表すときには進行形可》」としている。

例文 (53) は完了形と共に用いられていて, 継続性が感じられる。(55) では否定文と共に用いられていて, 今までも述べているが, 断定性が緩和されている。(54), (56), (57), (58) の例は一時的な状態が強調されていることが読み取れる。(59) a. では, ‘always’ と共に用いられていて, 一時的な感情的な側面が読み取れる。(59) b. では, ‘more and more’ と共起していて過程が強調されている。(60) の例文では, ‘in his mind’ が使われていて, 現実のことでないので進行形が使われていても問題がないと考えられる。

ただし, 小西 (2006) の p.1494 にあるように ‘possess’ が現実の世界で単に「持っている (have)」という意味だけなら「進行形不可」と注記しているように, \*He is possessing all kinds of books. は非文である。小西 (2006) の p.908 にある \*I am having a big house and farm. が非文であるのと同様である。

ただ現実の世界であっても, (61), (62) の例にあるように, 完了形で用いられて, 土地や建物の所有の継続を強調している文脈では, 可能と考える。

(53) The region of Sicily has been belonging to the UNESCO World Heritage List since 2005. —Dina D’Ayala, Enrico Fodde: *Structural Analysis of Historic Construction*

(54) The burden is consisting of four coal burdens and three oil burners levels —Ülo Jaaksoo: *International Federation of Automatic Control*

(55) “... I asked her once or twice if my food was not agreeing with her, but she was vague in her answer.” —Ross Macdonald: *The Ivory Grin*

(56) Low fares are costing American Airlines an estimated \$12 million a month; ... —*Newsweek*

(57) With horror he realized, through the fog of sleep, that this was not merely a roll. The deck was remaining slanted. —H. Wouk: *The Caine Mutiny*

(58) ...just as the world was seeming rather dull and middle-aged to them, the second war had come about... —A. Christie: *By the Pricking of My Thumbs*

(59) (a) “But plans are always being that way. They are always sounding like you will be waltzing into somewhere ...” —Jon Hollins: *The Dragon Lords: Fool’s God*

(b) You’re sounding more and more like Richard every day,’ she laughed. —Jeffrey Archer: *The Prodigal Daughter*

(60) So he is not a classical homosexual but somewhere in his mind he is possessing that man by possessing his woman.

(61) Thus, if a person has been possessing the land for 30 years, this fact will be well known to neighbors. —*The Landman* (第 32 巻)

(62) ..., it is very possible that the new owner will be much more inclined to shut down a plant than the one who has been owning it. —*Corporate Takeover*

最後に, この関係動詞 (所有動詞を含む) を, ネイティブでないと思われる発話者が使っている 63, 64 の例のような進行形は, 正しい使い方なのかは疑問が残る。日本語の「ている」とある場合に, どの動詞でもネイティブでない私たちは, 英語の進行形で表そうとする傾向があるので, 注意する必要がある。

- (63) I am owning my own home in Delhi." Pleased by this sign of his superiority,...” ——Anurag Mathyur: *Making The Minister Smile*
- (64) The burner register is consisting of four coal burner and three oil burner levels. ——Ülo Jaaksoo: *International Federation of Automatic Control*

## 5. おわりに

これまで見てきたように状態動詞を5つに分類し、それぞれの動詞の進行形の可否について、実例をもとに再検討してきた。結論は次の通りである。

- (1) 知覚動詞では、
- (a) 空想や幻聴・幻覚の場合
  - (b) 状態の変化を表す場合
  - (c) 一時性を強調する場合
  - (d) always などの副詞を伴って感情的な要素を加味する場合
  - (e) 継続を強調する場合
- に進行形が可能であった。
- (2) 思考動詞では、
- (a) 断定を緩和する場合
  - (b) 断定を避けて、ためらいがちな気持ちを表す場合
  - (b) 一時的な過程を強調する場合
  - (c) 主に完了形で用いられていて、継続の強調を場合
- に進行形が使われていた。
- (3) 認識動詞では、思考動詞と同様な理由で進行形が使われていた。
- (4) 感情動詞では、主に
- (a) 一時的な感情を強調する場合
  - (b) 話者のためらいがちな気持ちを表したり、断定を避けたりする場合
  - (c) 継続の強調をする場合
- に使われていた。
- (5) 関係動詞（所有動詞を含む）では、もともと状態性が強い動詞であるので、状態の変化や過程を表すことがあまりないので、進行形で用いないのが普通であるが、時に、
- (a) 一時性を強調する場合
  - (b) 状態の変化や過程を強調する場合
  - (c) alwaysなどを伴って、感情的な色彩を表す場合
  - (d) 完了形と共に用いて継続を強調する場合
- に用いられることがあるが、分類上一番進行形で用いられることが少ないことが分かった。

状態動詞が進行形で使われるための共通する条件は、進行形の基本的な働きである始点を意識し、終点に向かうその過程を表現することが必要になることである。もともと始点、終点を意識しないですむ、一定の状態性だけを表す状態動詞では、進行形で表現しないのが一般的であるが、過程の一点を切り取り、一時的なことを表わしたり、話者のためらいがちな気持ちを表わしたり、断定を避けたり、過程、継続を一時的に強調する場合に、進行形が可能となっていた。実例でもそのことが確認できた。

また状態動詞の中で進行形になりやすい動詞、なりにくい動詞があることも分かった。これは状態動詞の状態性の程度に差があると考えられる。小西（1987, 1993）で、すでに状態性に段階性があることが示されていた。

進行形がだんだんと使われて来ても、belong to, consist of, exist, ownなどの極めて状態性の高い意味を持つ状態動詞は、通常、進行形で使われないで残ると予測できる。

## 参考文献

- 赤須 薫 (編). 2018. 『コンパスローズ英和辞典』. 東京: 研究社.
- 安藤貞雄. 2005. 『現代英文法講義』. 東京: 研究社.
- Baker, C. L. 1995. *English Syntax* (2nd Edition). Texas: The MIT Press
- デクラーク・レナート (安井 稔訳). 1994. 『現代英文法総論 (*A Comprehensive Descriptive Grammar of English*)』. 東京: 開拓社.
- 江川泰一郎. 1991. 『英文法解説 (改訂三版)』. 東京: 金子書房.
- 花本金吾他 (編). 2003. 『レキシス英和辞典』. 東京: 旺文社.
- Hornby, A. S. *et al* (edit). 2010. *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (8th edition) Oxford: Oxford University Press.
- 柏野健次. 1999. 『テンスとアスペクトの語法』. 東京: 開拓社.
- 柏野健次. 2010. 『英語語法レファランス』. 東京: 三省堂.
- Kirkpatrick, E. M. (edit.). 1980. *Chambers Universal Learner's Dictionary*. Edinburgh: Chambers.
- 小西友七 (編). 1987, 1993, 2006. 『ジーニアス英和辞典 (初版・改訂版・第4版)』. 東京: 大修館.
- Leech, G. 1971. *Meaning and the English Verb*. London: Longman.
- 南出康世 (編). 2014. 『ジーニアス英和辞典 (第5版)』. 東京: 大修館.
- 宮川幸久・林龍次郎・向後朋美・小林千明・林 弘美. 2010. 『要点明解 アルファ英文法』. 東京: 研究社.
- 中村 捷. 2009. 『実例解説 英文法』. 東京: 旺文社.
- 中尾俊夫・胡馬 修. 1990. 『現代の英文法』. 東京: 大修館.
- 野村恵造 (編). 2013. 『コアレックス英和辞典 (第2版)』. 東京: 旺文社.
- Palmer, F. R. 1974. *The English Verb*. London: Longman.
- Pearson Education (edit). 2014. *Longman Dictionary of Contemporary English* (6th edition). Pearson Japan: Pearson.
- Procter, P. 1995. *Cambridge International Dictionary of English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Quirk, R. *et al*. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- 鈴木永一・安井 泉. 1994. 『現代の英文法 第8巻 動詞』. 東京: 研究社.
- 高梨健吉. 1970. 『総解英文法』. 東京: 美誠社.
- トムソン, A. J., マーティネット, A. V. (江川泰一郎訳注). 1988. 『実例英文法 (第4版)』. 東京: オックスフォード大学出版局.
- 綿貫 陽・宮川幸久他. 2000. 『徹底例解ロイヤル英文法 (改訂新版)』. 東京: 旺文社.
- 綿貫 陽・マーク・ピーターセン. 2006. 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 東京: 旺文社.
- 山岸勝榮 (編). 2015. 『スーパー・アンカー英和辞典 (第5版)』. 東京: 学研.